



大山崎の野鳥 (オオバン)

発行日 平成 30 年 1 月 1 日  
 発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)  
 発行責任者 栃尾 勉  
 連絡先 大山崎町歴史資料館内  
 TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289  
 URL <http://www.kyoto-ofg.org/>

第 1 4 6 号



年のはじめに

会長 栃尾 勉



あけましておめでとうございます。皆様にはご家族お揃いでお健やかに新しい年をお迎えのことと存じます。

今年度はガイド件数・人数の増大と満足度アップを第一目標としました。その対策として二つの特別実行委員会を設けて活動しました。

一つ目は分かり易いガイド目的とした「ガイド説明・資料集」の制作です。内容的には山麓・登山・水辺コースなどのガイド時に補足説明として使用する40枚の資料を作成しました。会員に配布予定です。

二つ目は新作出前ガイドです。「聖天さんとどろぼう」「十七烈士と新選組」など大山崎の昔話、歴史話などを委員会の努力で6作も追加できました。今後、出前ガイドの拡充につながると期待しています。

更に、今年度は春と秋の土、日、祝日にJR山崎駅の「おおやまざき なび」を利用したミニガイドツアーを実施して多くの来訪者の方に利用いただき楽しんでいただきました。これらは観光PRなどの地域貢献にもなり、ガイド実績向上にもなっています。

OFG主催「秋の天王山ウォーキング」は、多くの申込者がありましたが、雨天のため参加者が減りまし

た。しかし当日のアンケート結果では、対応が評価され多くの方から満足や称賛の声をいただきました。

11月3日(祝)「大山崎町制50周年記念式典」が大山崎中学校体育館で施行され「大山崎ふるさとガイドの会」は、これまでの町政の推進に寄与した功績の特別表彰で名誉ある「功労表彰」を受賞しました。

平成29年度も残り3ヶ月となりました。会の事業としましてはまとめの時期でもありますが、今後も「公開歴史講演会」・「写経と散策」・「水辺の散策」などの計画も進めています。この事業につきましても町制施行50周年記念協賛事業として登録されています。多くの方に参加いただきたいと思います。

当会は、生涯学習を通じて観光ガイドや小中学生の学習支援を行い、その活動は町政の「文化・観光振興」にも大きな貢献であると自負できます。しかし会員は、高齢化で体力低下が見受けられます。今後の会の継続や発展の為には、常に新しい人材の確保と養成が必要です。その為、来年度計画として「ふるさと案内人養成講座」の開催計画を役場に申請しました。

町のキャッチコピーである「いざ、天王山」・「勝負の聖地」にもあやかり、OFGもいよいよ勝負時です。今後の更なる発展を期待しています。

最後に、今後とも積極的に当会の活動に参加いただきたく、ご協力をお願いと、皆様の健康とご多幸をお祈りしまして新年の挨拶とさせていただきます。



11月10日～12月31日までの活動実績

1. 主なガイド	
・11月11日(土) KDDI・経済環境課	81名
・11月12日(日) ふるさとに親しむ会	40名
・11月17日(金) NHK文化センター	10名
・11月22日(水) 大阪府高齢者大学校	40名
・12月2日(土) 京都造形芸術大学	20名
・12月10日(日) 大山崎町政策総務課	27名
2. 会員行事	
「会員学習会」	
・11月22日(水) 3班担当「三川合流」	26名
・12月20日(水) 4班担当「大山崎町のお地藏さん」	28名
「あちこち学習山歩」	
・11月27日(月) 唐櫃越え	10名
・12月11日(月) 天王山から乗願寺	10名

活動予定

☆ 主なガイド、行事予定	
・1月17日(水) 新春のつどい	
・1月19日(金) 第二大山崎小学校校外学習支援	全班
・1月24日(水) 愛で歩こう会	4班
・1月20日(土) 円明寺ヶ丘長寿会 出前ガイド	1班
・2月17日(土) 写経と散策	
☆ 公開歴史講演会	
・1月28日(日) 「地域の文化財に学ぶ」 講師:加藤善朗氏	
・2月11日(日) 「明智光秀と本能寺の変」 講師:黒川孝宏氏	
☆ 会員学習会	
・1月24日(水) 1班担当	
・2月22日(木) 2班担当	
☆ アサヒビール大山崎山荘美術館	
12月16日(土)～4月8日(日) 企画展	
「没後40年 濱田庄司展—山本為三郎コレクションより」	

11～12月ガイド実績

	一般ガイド	歴史資料館	宝積寺・定点	山崎駅・なび	合計
11～12月	23件 388人	204件 503人		26件 72人	253件 963人
平成29年度累計	83件 2575人	876件 2436人	66件 251人	243件 648人	1273件 5910人

バス視察研修

関ヶ原（戦国・歴史散策）



12月6日朝、曇りながらまずまずの天気、総勢41名、大山崎を出発した。新人の私にとって初めての研修旅行。関ヶ原は新幹線を通るたびに行ってみたと思っていた。

まず、岐阜県関ヶ原町の歴史民俗資料館に到着し、史跡ガイドさんの説明を受けた。館内には陣形図や関ヶ原合戦図屏風、古文書、福島正則の水牛の角兜、井伊直政の赤備えなどが陳列されていた。関ヶ原古戦場は国指定史跡であり、映画やドラマの撮影、テレビの歴史番組に登場するとあって、それぞれの陣地跡にはのぼりが立ち、保存と活用にも力を入れていて、やはりスケールが大きいという印象を受けた。その後「徳川家康最後の陣跡」首実検をした「床几場」を見て、笹尾山「石田三成・島左近の陣跡」に登った。

ふるさとガイドに関わるまで歴史にはそれほど関心がなく、1600年関ヶ原の戦いと日本史の年表の1コマと捉えていたが、歴史上の人物の評価や、それに至る背景や人間関係を調べるうちに見方が変わった。石田三成はこの笹尾山から戦地を望んでいたのか？濃い霧に阻まれた朝、ほどなく東軍井伊、松平隊が西軍の宇喜多隊を攻撃して始まった戦いは小早川隊の裏切りにより形勢が変わって、東軍の勝利に終わったと。両軍とも多くの犠牲を出した。陣地の俯瞰図を実際の景色と重ねて想像が膨らんだ。

その後訪れた岐阜城からの眺めも京都とは違い、ジオラマのような地形を見て、本当にこんな城で生活したのだろうかと思戦国時代の大変さを垣間見た。最後に岐阜の大仏様の優しいお顔に癒されて、帰路に着いた。

お昼の松花堂弁当もおいしく、現地のガイドさんの地元愛に共感し、山崎の合戦跡、夢ほたる公園にも陣形の俯瞰図がほしいなと思った。

(4班 守 きみよ 記)

洛中ウォーキング 2017 秋

「明智藪への道」



10月30日(月)、25名の参加者は、戦国時代最大の出来事「本能寺の変」、主君信長を討ち、山崎の合戦で秀吉に敗れ三日天下の代名詞になり坂本城へ敗走の道中、落ち武者狩りの農民に襲われ命を落とした、光秀の経路、隠密裏の逃避は多勢や馬甲冑は難が有る道を4班木村嘉男先輩に案内を戴きました。

藤森駅から今は宅地や農地、竹藪が続く山道を軽装で通ったに違いないと説明を受け乍ら道中「弘法大師杖の水」を経て明智藪へ、今は住宅の片隅、怪気現象が起こった事等で地主さんが近くの本経寺に土地を寄進、供養塔が建立されている。

昼食後、石田の森「天穂日命神社」へ大国主神に心服「神魂神社」を建て子の建比良鳥命は出雲国造の祖神となったとされる。次に都に通じる街道に五体を分祀した六地藏の名で知られる大善寺参拝を最後に六地藏駅より帰途についた。(1班 福田 朱美 記)

歴史講演会

「千利休の堺屋敷跡を探る」

11月11日(土) 講師：堺市博物館主幹 續伸一郎氏 長年、埋蔵文化センターで堺の都市遺跡を調査されて来られた、續先生をお迎えしお話頂きました。

中世の頃、堺の町は交通の要衝であり南蛮貿易で財を成した商人の蔵(埦列建物)が林立し、これらの建物の中に多量の物資が貯蔵されていた。発掘調査では外国産や国産の陶磁器など大量に出土し、持ち主の好みも分かる程だそうです。

江戸期以降の一回り大きな町の地下には、中世期の町が遺跡として残っていることや、災害の後が何層にも重なってできた地層であることが分かり100年間で1.3mもかさ上げされている。

千利休が活躍した時代の、茶の湯に関する出土例は少ないようで、現代の「伝 利休屋敷地跡」は、調査が進み「利休の井戸」の側で、建物・茶室・庭などほぼ確定されてきました。等々の興味深いお話をお聞きしとても有意義な時間でした。

(3班 三枝春美 記)

歴史講演会

「豊臣政権のなかの千利休」

11月23日(木) 講師：奈良大学教授 河内将芳氏



今回の講演で河内先生は、利休を茶聖というイメージから切り離して、同時代の古文書などの文献資料に基づいて歴史的にお話しして頂いた。

利休は、堺の他の豪商とともに、茶湯を通じて信長等の有力大名に接近し、政治に関わるようになった。

秀吉は山崎合戦後の天正13年、禁中茶会で宗易に茶会の委細を任せる為、便宜的に僧と見なし「利休居士」として宮中へ昇殿させた。(「兼見卿記」)。

天正14年、大友宗麟からの援助要請に対し、「内々の儀は宗易、公儀のことは宰相(秀長)あい存じ候、…」と、秀吉体制の中での宗易の位置づけが示される。(「大友宗滴書状写」他)

秀吉の有力な部下の中で、宗易だけが異色、いずれ排斥される存在にあったかのようである。実際に秀吉の天下統一と連動して利休は「曲事(くせごと)」を追及され、失脚、切腹した。(「多聞院日記」他)

秀吉体制の中での利休の立場の変化に興味深く学ぶことができた。(4班 市川 孟 記)

会員学習会

「宝積寺院代様講話」



11月28日(火) 公民館大研修室に於いて、宝積寺院代の寺石さんの講話が会員41名の参加のもと、開かれました。

最初に栃尾会長から、今回の件のお詫びと、これからも良い関係で関わっていきたくと挨拶されたあと、院代さんからも「お寺の都合で住職を引退し息子に引継ぎ、今は息子がトップであることや、社寺は全くの縦社会であるため、皆様と若干の行違いがあり、誠に残念でわたしの坊主頭へ免じてお許しください」とのお言葉を頂き和やかな雰囲気の中、事前に出されていた会員からの質問に答えて頂く形で講話が始まりました。

また、持参された資料で盛りだくさんな事柄にユーモアを交えながら教えて頂き大変勉強になりました。

私達会員も心新たにより深く勉強し、多くの方に宝積寺のことを正しくお伝え出来るよう精進してゆきたいと強く思うことが出来ました。

(2班 寺谷 京子 記)